

令和3年12月9日

登録番号 13 — 008

氏名 増田 裕子

登録番号 13 — 037

氏名 林 久善

大阪市地域公共人材活動報告書

- 1 派遣日時 令和3年12月1日(水) 19:30 ～ 21:15
(初回ヒアリング)
- 2 派遣場所 三津屋社会福祉会館(三津屋地域活動協議会)
- 3 参加人員 計20人:依頼団体16人,淀川区役所職員2人,地域公共人材2人,
- 4 活動内容
 - ① 派遣内容
地域福祉の担い手である地域社協役員および地域ネットワーク委員合計15名程度が集まり、福祉的な観点からの見守りネットワーク強化事業と自主防災組織との連携の可能性について意見交換を行うに当たり、地域防災の重要性に関する話題提供およびグループに分かれて意見交換する際のファシリテートを行ってほしい。
 - ② 支援内容
派遣依頼内容に基づき他地域での事例紹介とヒアリングを兼ねた意見交換会を行った。
 - ③ 成果(意見交換会で明らかになった課題や課題解決方法の糸口)
 - A) 今の自分自身の活動について
社協役員:地域の自主防災組織を兼ねている。災害時に避難所を開設するための訓練等を行なっているが、メンバーは町会役員も兼ねている。災害時には町会本部で安否確認をすべき立場でもある。平時にはできている兼務だが、災害時には兼務することはできない。担い手を増やすことが急務だと考えている。
地域NW委員:平時には見守り活動を行なっていて、地域の中の要配慮者の存在をよく知っているが、その活動が災害時にどう活かされるのかは、はっきりわかっていない。

町会役員：町会役員として、平時は新しいマンション等が建ったときには町会に入ってもらえるよう、訪問活動を行なっている。比較的加入してくれる世帯が多いが、コアメンバーとして町会活動をしてくれるかということ、各町会で差があるようだ。

B) これから、誰と（どんな団体と）活動をしていきたいか

社協役員：小学校と合同で防災に取り組み、PTA と繋がりたい。

地域 NW 委員：見守り支援員を増やしたい。大勢の人で見守る方が気持ち楽になると思う。

町会役員：企業と連携したい。町会よりも小さい規模の隣近所の助け合う関係性を作っていきたい。

④ 今後の予定

三津屋地域と区役所と日程調整を行うこととする。

- 第2回：図上訓練：災害時タイムラインシミュレーション（自助と共助をイメージする）と振り返り
- 第3回：本当に必要な防災活動について考えてみよう①（アイデア出し）
- 第4回：本当に必要な防災活動について考えてみよう②（アウトプット・アクション）

例）選挙投票日における避難所見学・体験、子ども及び子育て層向け防災活動など

⑤ 所感

三津屋地域は社協役員、NW 委員、町会役員がそれぞれの役割を分担し、積極的な活動を行っていますが、活動に重複があるか、漏れはないか、無駄はないかなどの検証を行うことがなかったことが今回の派遣で明確になったと思います。

今後の派遣で、平時の活動の重複や、役員の兼務状況などを可視化し、平時から災害時に活動が移行する時の活動内容、役割分担を地域で共有できるよう、支援していきたいと思います。

所感

三津屋地活協は音楽祭など地域活動を多様な主体と連携・協働してきた実績があり、今回の人材の派遣についても冒頭でのレジュメに沿った説明で理解してもらえたと感じました。

今回のテーマについては、要支援者の「平時の見守り」と「有事の安否確認、避難誘導」との連携となるが、初回のヒアリングでは、個人の役割の重複に気づく場面があったので、改めて有事の行動をシミュレーションし、個人の行動を棚卸し確認するような基本的なことから、真に必要な防災活動、その活動の担い手について検討を支援していく。

支援にあたっては、私たち人材が持つ経験やノウハウをお伝えしながら、そもそも備えている地域活動の底力を引き出せるように心がける。